

総務常任委員会先進地視察研修報告

- 期 日 令和6年11月5日（火）・6日（水）
- 視 察 先 富山県南砺市、長野県上田市
- 参 加 者 委員6名、随員1名 合計7名
- 視察概要

【富山県南砺市】

- 人 口 46,225人（令和6年9月末日現在）
- 面 積 668.64㎡
- 視察事項 「移住・定住政策について」

I 選定の経緯

本委員会では、「財政健全化」を大きなテーマに掲げ、人口減少に歯止めをかけ、自治体の財政力や魅力度の向上に資するため、全国的に喫緊の課題である移住・定住による人口増加策について研究することとなった。

本市も移住定住政策に関して力を入れているところではあるが、今回、あらゆる世代の移住先として人気がある富山県南砺市を視察し、そのノウハウを学び、本市の財政健全化の一助とすべく、視察地に選定した。

II 現状と課題

(1) 2010年～2023年（13年間での変化）

総人口	△9,362人
年少人口	△1,975人
生産年齢人口	△8,721人
高齢人口	1,294人

（年間約720人のペースで進む人口減少）

(2) 年間出生数の減少

第2期南砺市人口ビジョンによると、令和6年10月から令和7年9月までの人口ビジョン目標値（298人／年）に対し、今年は200人を割り込む状況である。

【出生数の増加に向けた対応策】

若者、特に女性に住む場所として選んでもらえるまちを目指し、女性が自らの意欲や能力に応じて活躍できる地域実現のため、次の取組が必要である。

- ・ 就業期の女性に選んでもらえる就業場所の提供
- ・ 地域あげての男女共同参画意識の醸成等の取り組みの強化

(3) 若者の転出増・転出超過減少

南砺市の社会動態（転入・転出）の年齢別内訳をみると、若者の転出超過減少が顕著であることが分かる（人数は男女計）。

15～19歳	31人	30～34歳	47人
20～24歳	79人	35～39歳	14人
25～29歳	56人	40～44歳	5人

さらに、人口戦略会議から、令和6年4月24日に地方自治体「持続可能性」分析レポート（消滅可能性自治体）が発表され、南砺市は、若年女性人口（20から39歳）変化率が－50％を超える「消滅可能性自治体」と公表された。2014年と比べ減少率は改善されたが、若年女性人口及び総人口とも減少に歯止めがかかっていない状況である。



令和6年南砺市視察資料より

Ⅲ 南砺市の移住・定住事業について

上記のような現状と課題を踏まえ、移住・定住政策に力を入れるようになり、現在では若者世代・子育て世代・シニア世代とも移住先として富山県内でも上位に位置するようになった。

(1) 南砺市が評価されているポイント

南砺市の良さを感じ、移住していただけるよう、暮らしやすさと充実した移住支援策で、U I J ターンを支える。

南砺市への移住者数	
令和元年度	180人
令和2年度	204人
令和3年度	273人
令和4年度	206人
令和5年度	202人

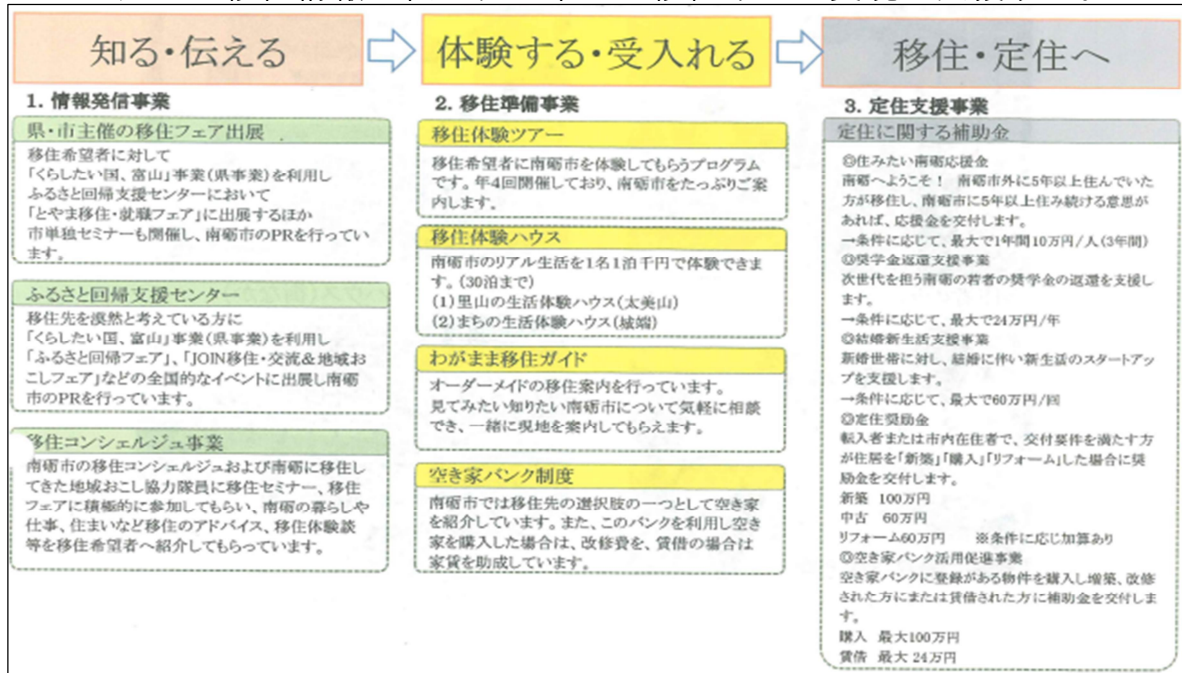
ポイント

- ①世界遺産などの伝統や文化の宝庫
- ②就業、通勤、起業のどれもが良い環境
- ③移住を希望する方への支援制度が充実
- ④移住定住希望者へのトータルサポート

(2) 移住・定住に向けた国・県・市の施策をパッケージ化

手続きや情報提供をワンストップサービスでサポートすることで、移住

への支障を解消する。また、潜在的な都市部の移住希望者へ様々なチャンネルを通して移住情報を伝え、ご本人の移住希望の実現を支援する。



令和6年南砺市視察資料より

(3) 充実した補助制度(一例)

生活の支援(住みたい南砺応援金)

対象者 ・ 市外に5年以上住んでいた方
 ・ 令和5年1月1日以降に南砺市以外から転入し、5年以上南砺市に住み続ける意思がある方

- ① Uターン応援金…10万円/人(3年間)
- ② IJターン応援金…5万円/人(3年間)
- ③ ウェルカム応援金…5万円/人(1年間)

住まいの支援(定住奨励金)

対象者 ・ 南砺市に転入前、市外に直近5年以上住所があった方
 ・ 転入した日から前後3年以内に住宅を取得した住居に住所を定めた方

奨励金額 ・ 基本額(新築)補助率5/100又は100万円のどちらか少ない方
 ・ 基本額(中古)補助率1/10又は60万円のどちらか少ない方

- ① 購入住宅改修等補助金…市内業者で施工 補助率1/2
 上限100万円
 市外業者で施工 補助率1/5
 上限50万円

② 家賃補助金…補助率1/2 上限24万円

IV 南砺市のランキング（移住・定住政策展開後の効果）

・「田舎暮らしの本」宝島社 2024年2月号

住みたい田舎ベストランキング（北陸エリア）

シニア世代部門 1 位
子育て世代部門 1 位
若者世代・単身者部門 2 位
総合部門 2 位

・^ス^マ^ウ^トSMOUT移住アワード2023

移住・関係人口を促進するプラットフォームサービス「SMOUT」では、5万8千人以上の登録ユーザーが興味を示したプロジェクトから、上位にランクインした30地域を「SMOUT移住アワード」としてSMOUTホームページで発表している。

2023年度年間ランキングにおいて、南砺市が5位（前年6位）に入る。

V 各委員の所感

- ・ 南砺市への転入の動機の把握方法を質問したところ、市役所窓口で記入する住民異動届に移住・定住理由を記入（任意）する欄を8項目ほど設けており、今後、移住定住施策を展開するための定量的な分析をするに当たり有効であると感じた。移住・定住理由の基礎データがあれば、それを基に各種施策を展開できるので栃木市でも活用してはいいかと思った。
- ・ 移住希望者に対し、国・県・市の施策をパッケージ化し、手続きや情報提供をワンストップでサポートすることで、移住への不安を解消している点は興味深い。中でも、移住準備事業として、移住体験ツアーを年4回開催しているが、応募者が多いため、移住の本気度を確認するオンライン面接を実施している点である。「移住先の情報はこちらから押し付けなくても移住希望者は事前に自ら確認してくれるので、職員がその本気度を面接で確認するのです！」という言葉が印象に残る。
- ・ 移住・定住の所管課の名前が「南砺で暮らしません課」となっており、親しみやすく惹かれるのではないかなと思う。ネーミングだけではなく、係が定住、空き家、婚活若者、市営住宅などに分かれており、1か所で用が済むことは利用者にとって分かりやすいと思った。
- ・ 移住者に対する一本化された窓口は、移住者の困りごとや支援体制の相談先として心強く感じるであろうし、定住後の移住者と地域とのミスマッチも減らすことができるので、栃木市でも十分検討に値する取り組みであると思う。
- ・ 1年に何度もフェアを開催し、市をアピールすることや様々な体験を

通して移住希望者と熱心にコンタクトを取るなどして、移住希望を実現させていこうとする意気込みや熱量を感じた。

- ・ 栃木市も首都圏に近く交通の便も良い都市の利便性を生かし、南砺市のように栃木市にあった奨励金や補助金等を考えるべきではないか。また、居住場所の情報提供を進めていただき、若者世代が求めやすい価格で住みよい場所や中古物件の情報提供も進めていただきたい。さらに、若者の働く場所を確保し、住みやすい団地造成をすることにより移住定住の促進につながると思う。何より環境づくりが大切である。

【長野県上田市】

- 人 口 151,540人（令和7年1月1日現在）
- 面 積 552.04㎡
- 視察事項 「上田市歴史的風致維持向上計画及び歴史的町並みの再生について」

I 選定の経緯

本市は、県内唯一の伝統的建造物群保存地区を有し、味噌工場跡地の整備や伝統的建造物の保存・修復など、地区の保存と観光誘客に力を入れている。

今般、上田市の歴史的風致維持向上計画及び歴史的街並みの再生をテーマに、特に、衰退した柳町の街並みの再生方法や地域住民との関わり方、財政的な効果について、現地視察を兼ねて教示いただきたく、視察地を選定した。

II 上田市歴史的風致維持向上計画について

1 策定経過

- (1) 歴史的風位維持向上計画とは
 - ・ 地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律に基づき市町村が策定する計画で、期間は概ね5年から10年とする。
 - ・ 国の計画認定により、史跡や街並み整備、歴史的建造物の保全に対する国の支援が拡充される。
- (2) 策定の経過・流れ
 - ①平成30年度～都市建設部と教育委員会事務局とで基礎調査、国との事前協議を開始
 - ②令和2年度～「歴史まちづくり庁内調整会議」での検討・協議
 - ③令和3年度～市政経営会議で方針決定。
 - ④令和4年度～市議会への報告。国交省・文化庁・農水省による現地視察。パブコメの実施。

⑤令和5年2月15日 国による計画の認定

2 計画の概要

(1) 歴史的風致とは

「地域におけるその固有の歴史及び伝統を反映した人々の活動」と
「その活動が行われる歴史上価値の高い建造物及びその周辺の市街地」
が一体となって形成してきた良好な市街地の環境

(2) 目的

ア 歴史的建造物や地域固有の活動・営みを明らかにし、郷土の歴史文化に対する誇りを醸成する。

イ 地域のまちづくりと一体となった歴史的文化遺産の整備・活用を推進し、観光の振興及び交流人口の増大に繋げる。

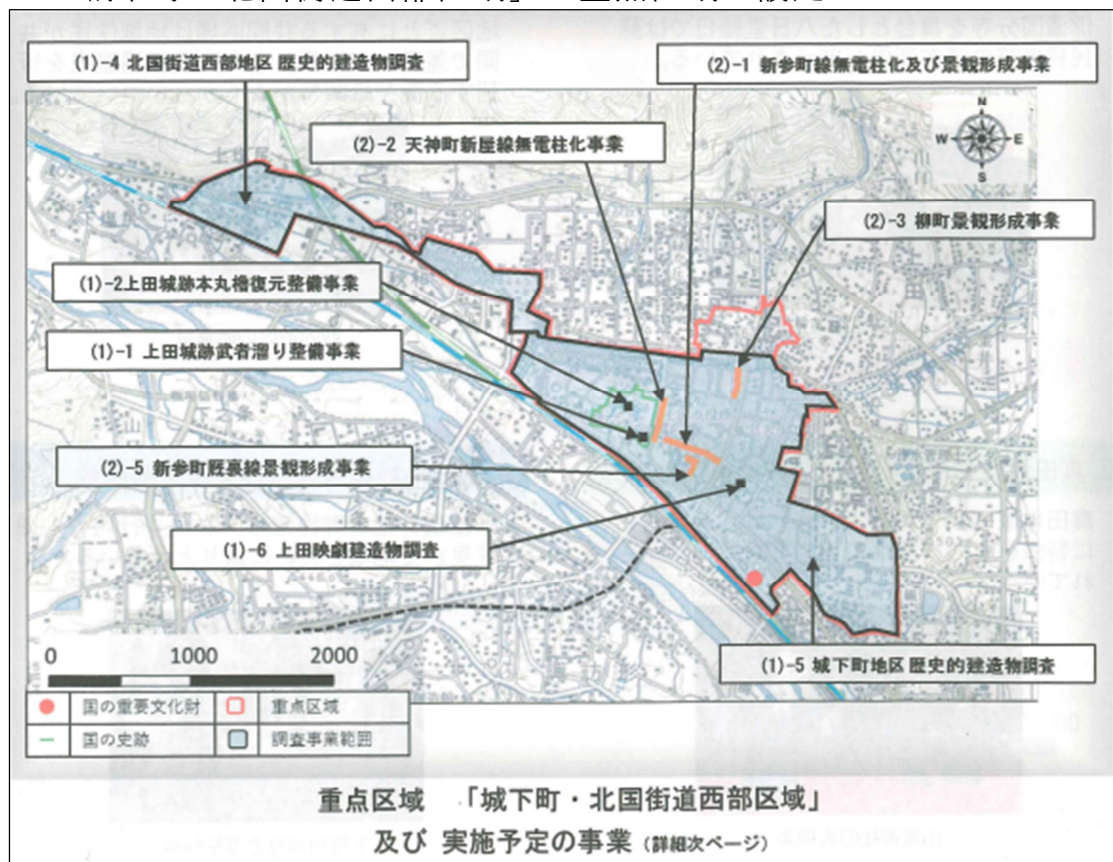
ウ 上田城整備における国交省補助の範囲拡充をはじめ、補助率の嵩上げ、採択要件の緩和といった、より有利な財政支援制度を活用し、歴史まちづくりを推進する。

(3) 計画期間

令和5年度から令和14年度までの10年間

(4) 法定要件とされる重点地区

「城下町・北国街道西部区域」を重点区域に設定



上田市歴史的風致維持向上計画（概要版）令和5年9月より

(5) 実施予定事業・施策

①重点区域において9事業、②全市域を対象とする12事業の展開
①重点区域における9事業とその内容

1	上田城武者溜り整備事業	上田城跡に武者溜りを整備するための石垣や堀、土塁の整備
2	上田城跡本丸櫓復元整備事業	上田城跡本丸の隅櫓4棟及び土塁、西櫓口櫓門の復元的整備の実現に向けた調査研究
3	北国街道西部地区歴史的建造物調査	建築士、市民団体等の意見を聴きながら歴史的建造物の保存・活用の方策の検討
4	城下町地区歴史的建造物調査	
5	上田映劇建造物調査	文化財登録制度を念頭に置いた建造物調査の実施
6	新参町線無電柱化及び景観形成事業	無電柱化、歩道美装化及び隣接箇所の広場整備
7	天神町新屋線無電柱化事業	無電柱化実施に伴う防災対策と城跡周辺の景観保全
8	柳町景観形成事業	柳町地区の景観保全
9	新参町厩裏線景観形成事業	上田藩主居館表門、土塀、濠周辺の景観整備

②全市域を対象とする12事業とその内容

1	指定文化財防災設備設置推進事業	重文、県・市指定文化財に対する防災設備設置補助の実施
2	重要文化財等修復補助事業	重文、県・市指定文化財に対する修復等の補助の実施
3	空き家情報バンク事業	空き家の情報提供、マッチング
4	無形民俗文化財後継者育成補助事業	後継者育成のための補助
5	活力あるまちづくり支援金事業	地域活性化とまちづくり推進
6	ふるさと上田先人顕彰事業	パネル展示による先人の紹介
7	住民自治組織によるまちづくり	まちづくりの推進を図るための住民自治組織に交付金を交付
8	地域学習推進事業	市民の学びの機会の提供
9	文化財de文化祭	文化財を舞台に音楽演奏会

		の開催
10	景観ウォッチング	地域の魅力の再認識
11	誘客促進事業	官民連携による観光ツアーの造成やイベントの実施
12	日本遺産推進事業	地域住民や交通・観光事業者連携による特産品の魅力発信、ツアー造成、文化財の保存活用の実施

3 後継者問題・空き家問題・店舗誘致等について

(1) 後継者問題

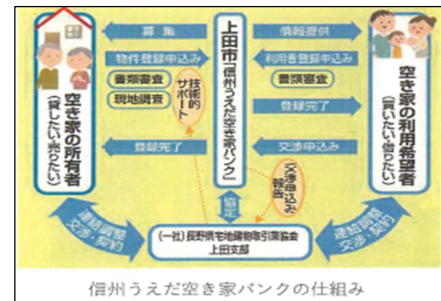
長野県事業継承・引継ぎ支援センターと連携

(2) 空き家問題

空き家情報バンク事業の活用

(3) 店舗誘致

中心市街地活性化出店支援事業補助金、
上田市地元温泉街空き店舗等活用支援
事業補助金等の活用



令和6年度上田市視察資料より

4 今後の課題と展開

(1) 当面は計画事業を着実に推進していく（事業の継続性）。

(2) 重点区域においては、街なみ環境整備事業として新たな景観整備を実施していく。

(3) 広報・周知活動の充実

・歴まちカードの配布、パネル展の実施（市立博物館・公民館・文化会館・アリオ上田）、公民館等での講座の開催

(4) 歴史的風致建造物への対応

・建造物認定までの仕組み整備

Ⅲ 歴史的街並みの再生について（柳町を例とした歴史的町並みの保存と利活用について）

1 柳町の整備経過

(1) 昭和63年～平成元年

上田市総合都市交通施設整備計画調査の実施

(2) 平成3年～

上田市歴史的地区環境整備街路事業調査の実施

(3) 平成5年～

同事業の「重点整備地区整備計画」に柳町を含む地区を位置づける（歴史の散歩道計画）。

- (4) 平成14年
柳町まちづくり・景観協定の締結
- (5) 平成16年
柳町・紺屋町地区整備方針及び事業計画策定
- (6) 平成17年～
上田市柳町・紺屋町地区まちづくり要綱の策定
街なみ環境整備事業の実施
- (7) 平成18年
上田市柳町地区街なみ整備助成事業補助金交付要綱施行

2 柳町まちづくり協議会の設立

- (1) 平成4年5月 柳町まちづくり協議会設立（自治会・住民中心）
- (2) 平成14年7月 柳町まちづくり・景観協定の締結
- (3) 平成15年9月 } ワークショップ（12回）
平成16年3月 }
- (4) 平成17年3月 上田市柳町紺屋町地区まちづくり要綱策定
- (5) 平成19年4月 アダプトシステム
（道路の里親）協定締結

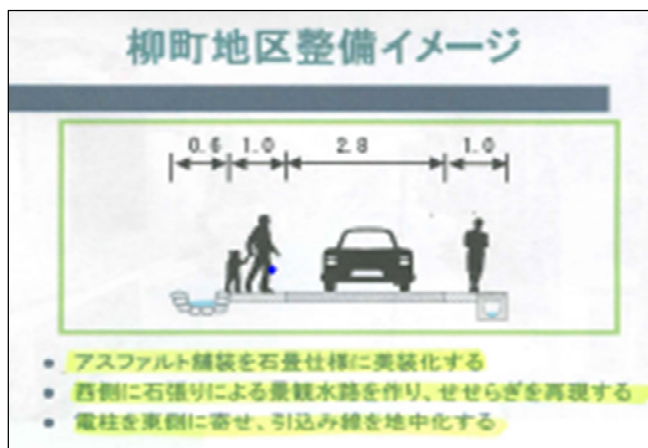


3 柳町の整備コンセプト（イメージ）

- (1) 利用しやすく住みよい道路にする
- (2) 歩行者・自転車の安全に配慮する
- (3) 狭い空間を有効活用し景観にも配慮する
- (4) 景観水路を設ける



【写真】令和6年度上田市視察資料より



令和6年度上田市視察資料より

4 柳町の整備例

	整備前	整備後
道路整備 石畳舗装 水路設置		
電線類移設 電柱の道路片側への移設と引き込み線の地中化		
小公園整備 公共工事の残地を小公園に		

【写真】令和6年度上田市視察資料より

5 評価・効果

- ・ 平成19年度まちづくり月間国土交通大臣表彰
- ・ 平成22年度手づくり郷土賞受賞
- ・ 柳町は、元々空き店舗が数件存在していたが、地元住民主導による

積極的な新店舗誘致活動を実施し、蕎麦屋、パン工房（東京の有名店）、飲食店、ブックカフェ、土産店など、数件を新たに迎えた。現在は空き店舗が1件もなく、土日は観光客で賑わっている。併せて、土日を歩行者天国にする社会実験を行い、自動車を迂回させるなど観光客誘客のための交通施策の展開も行っている。

また、まちの活性化と誘客増加のための新たなイベントとして、上記の店舗のほか、従来からある味噌屋、酒蔵などが一堂に会して「柳町発酵祭り」を開催し、まちの活性化に寄与し、大変人気を博している。

なお、上田市では、歴史的建造物が空き家になったとしても、今日まで買い上げたり寄附を受けるたりしたことは一切ないとのことである。市所有にすると固定資産税も入らず、将来的に莫大なランニングコストがかかるため、財政健全化のためにも、すべて民間主導により新店舗を誘致、維持管理してきた。その代わり、修景補助や環境整備（道路整備・電柱移設等）を実施し、出店希望者や移住者の希望が叶うよう後方支援に回ってきたとのことである。



【写真】令和6年度上田市視察資料より

IV 各委員の所感

- ・ 平成4年5月に柳町まちづくり協議会が設立されたが、あくまでも主体は住民であって、行政は後押しするだけである。したがって、住民が、自分の町をどのようにしていくのか積極的で地道な取り組みが行われており、ビジョンが明確に共有されてきたことが感じられた。また、観光誘客に関しては、誘客の動機付けを考えないといけないし、アクセス方法や広報等、多岐にわたる事業を進める必要がある。
- ・ どのように景観を守りながら歴史的町並みを維持向上させていくかは、目先の2、3年ではなく、長期的なスパンによって、しっかりとしたビジョンのもと事業を展開しなければ成功はないのではないかと感じられた。行政主導ではなく、いかに地域住民を巻き込んだ事業にしていくかが重要であると思う。
- ・ 栃木市は、空き家になった歴史的建造物（蔵）を市で取得している事

例が多いが、上田市では取得に関して市は一切関与せず、すべて民間主導による新店舗の誘致、維持管理、利活用などを行ってきた。栃木市ももっと民間の活力を利用すべきではないかと思う。

- ・ 北国街道の歴史を繋ぐ宿場町「柳町」を視察し、栃木市でも小京都・小江戸と呼ばれる街並みがあるが、価値ある建物を、暮らしの中で、どう生かしていけるのか、どう生かすのかを考えていきたいと思う。
- ・ 上田市では、民間主導で街並みをどのようにしたらよいか、また、いかに解体せずに再利用できるのか、多くの市民が検討を重ね整備している。歴史ある栃木市の街並みを守るために、行政と市民がいかに協力しているか、改めて検討の必要があるのではないかと思う。
- ・ 地元自治会を核としながら防犯防災や地域福祉等の単一自治会では解決が困難な課題や「地域でできることは地域で」の考えものと、NPO法人や市民活動団体等が協働することにより互いの活動を補完し、効率的な活動や役割分担が可能となり素晴らしいと思った。